

●2010年6月      総覧      モバイル版      過去記事      検索

- 2010/06/30 [ネパール首相, 辞任へ](#)
- 2010/06/29 [ダム建設も韓国へ](#)
- 2010/06/23 [ベルギー分離派の勝利から学ぶ](#)
- 2010/06/22 [インフラ建設で日本劣勢](#)
- 2010/06/16 [韓国語検定に受検者殺到](#)
- 2010/06/15 [張子のトラ!](#)
- 2010/06/12 [Ms Officeの安全性](#)
- 2010/06/12 [ブログ引越を検討中](#)
- 2010/06/11 [死者との同居: Windows Liveの恐怖](#)
- 2010/06/10 [Windows Live 炎上](#)
- 2010/06/10 [窓だらけWindows Live](#)
- 2010/06/09 [王制復古の提唱](#)
- 2010/06/04 [中国のネパール進出とアメリカ国益](#)

2010/06/30

## ネパール首相, 辞任へ

谷川昌幸(C)

マダブクマール・ネパール首相が, まもなく辞任する。「予算」を人質に取られ, 公立学校の先生の給与すら支払えない状態になり, せっぱ詰まってる辞任のようだ。

ネパールでは首相は1年もてば立派。ネパール氏には相当の政治手腕があったといえよう。

後継首相は, 当然, 手打ちができていると見てよい。マオイストのバブラム氏か, NCの誰か。もし万が一, 権力禅譲談合ができていないなら, これは一大事。大混乱になる。



MK.ネパール首相(nepalnews.com)

20:39 | [コメントの投稿](#) | [固定リンク](#) | [この記事을引用](#) | [ニュースと政治](#)

2010/06/29

## ダム建設も韓国へ

谷川昌幸(C)

韓国が, 官民一体で, パルバート郡の上部モディ水力発電事業に参加するらしい。すでに極西部のダルチュウラ郡チャメリヤ溪谷水力発電事業にも参加しており, 元気そのもの。

不思議なのは, このところ環境保護派がダム建設に目立った反対をしないこと。あれほど意気盛んだったのに, ご都合主義だなあ。

また, マオイストも, あれだけ大規模ダムに反対し, 小川ままと発電を推奨していたのに, 体制内化したとたん, 何も言わなくなった。何かあるのかな?



(Chameliya, Darchula by Google)

■ Modi Khola HEP

Modi Khola HEP was particularly significant to us because it included the largest diameter 3,200-3,500 mm, steel liners which we had manufactured and installed at that time.

**Project Specification**

<b>Type of project</b>	Construction of plant for generation of electricity
<b>Specification</b>	14MW from 2 x 7MW Francis turbines.
<b>NHE customers</b>	Hyundai Engineering Co. Ltd. (Korea) / Nepal Electricity Authority
<b>Dates of NHE work</b>	February 1999 to July 2000

**Scope of NHE work**

1. Manufacture, installation and commissioning of 3,200 - 3,500mm diameter, 350m long steel liner
2. Installation of gates, stoplogs and trashracks.
3. Installation of powerhouse electro-mechanical equipment.

#### 4. Installation of 132kV switchyard and Pokhara substation.



10:23 | [コメントの投稿](#) | [固定リンク](#) | [この記事引用](#) | [経済](#)

2010/06/23

### ベルギー分離派の勝利から学ぶ

谷川昌幸(C)

6月13日のベルギー連邦議会下院総選挙で、分離独立を唱える「新フラムス(フランドル) 同盟」が、定数150のうちの27議席をとり、第一党になった。オランダ語圏の分離独立派の得票率は4割に達し、今後、連邦政府の弱体化、下手をすると国家分裂となりかねない(毎日新聞6/14, 朝日新聞6/20)。

ベルギーは、1993年、連邦制となり地方政府の権限が大幅に強化された。国王を戴いているので、いわば「連邦王国」。その国家構造は以下の通り。

- ・国王—連邦政府—北部：オランダ語圏  
—南部：フランス語圏・ドイツ語圏  
—ブリュッセル：仏蘭2言語
- ・連邦政府 = 外交, 国防, 財政, 社会保障, 司法
- ・地方政府 = 経済, 雇用, 公共事業, 都市開発
- ・言語別共同体政府 = 教育, 文化

・選挙: 比例代表制。投票は言語圏別。ブリュッセルではどちらかに投票。下院第1党の党首を国王が首相に任命。

ベルギーは、人口1千万人の小国なのに、言語連邦制をとったため、制度が複雑となり、機能不全に陥っている。住民は隣の言語圏への転居さえままならない。先進国中の先進国ベルギーですら、連邦制をもてあまし、言語紛争・民族紛争を激化させ、国家分裂の危機にある。

さてネパール。本当に、民族(ジャーティ)連邦制を強行するつもりなのだろうか? HDI17位にして国王を戴く「最高度開発国」ベルギーですら、それはうまく機能していない。HDI144位にして国王なき途上国ネパールが民族連邦制を選択することが、本当に賢明なことなのだろうか?

<参照> 2008/08/02 [ベルギー言語紛争から学ぶ](#)



10:18 | [コメントの投稿](#) | [固定リンク](#) | [この記事引用](#) | [民族](#)

2010/06/22

## インフラ建設で日本劣勢

谷川昌幸(C)

SankeiBiz(6/19)に、ネパールの水力発電事業の記事が出ている。ネパールは、水力発電8000万Kwが可能であるのに、現在は68万Kwの能力しかない。この未開発の豊富な水力資源に中印が注目、ダム建設への参加を画策している。

日本は、資本と技術はあるが、コスト面で太刀打ちできない。ここでも、カネだけ出して、事業はほとんど中印にさらわれる、ということになりそうだ。ネパールにおける日本の存在感が、ますます薄れていくことは避けられそうにない。



カリガンダキダム (FAO)

9:44 | [コメントの投稿](#) | [固定リンク](#) | [この記事引用](#) | [経済](#)

2010/06/16

## 韓国語検定に受検者殺到

谷川昌幸(C)

KOL(6/15)によれば、韓国語検定試験申込書配布が15日から始まり、数千人の若者がこれに殺到した。前回の検定では、合格者6586人のうち6044人に求人があったという。韓国出稼ぎがほぼ確実となれば、語学検定に受験者が殺到するのも当然だ。

韓国は、すでに多くの点で日本を追い抜いた。わが大学にも韓国から短期、長期留学の案内がたくさん来る。滞在費無料など、ビックリするような好条件のものも少なくない。数年もすれば、日本の若者たちも韓国の大学、韓国の企業を第一志望とすることを考え始めるにちがいない。いや、それよりも先に、韓国の大学に優先的に求人票をだす日本企業が増加するであろう。

日本も、外国人を雇用するのであれば、韓国のような明確な雇用規則 (Employment Permit System) に従って雇用すべきだ。日本のような「研修」を名目とした外国人差別・搾取労働は、反日外国人を大量に生み出すばかりか、日本人全体の労働条件をも劣化させるだけだ。

語学検定に優秀なネパール青年が殺到する韓国。日本は謙虚に韓国から学ぶべきだ。



Job seekers queue up to get forms for the Korean Language test to qualify for employment in South Korea under the Employment Permit System (EPS) at Tripureswor in Kathmandu on Tuesday. Photo: Bikas Rauniar (KOL, 15 Jun)

【参照】

[革新の韓国・ネパールと立ち枯れの日本](#)

[老衰日本から青年中国へ](#)

[ネパール人研修労働者受入](#)

[外国人研修制度の欺瞞性：報道ステーション](#)

9:49 | [コメントの投稿](#) | [固定リンク](#) | [この記事引用](#) | [社会](#)

2010/06/15

## 張子のトラ！

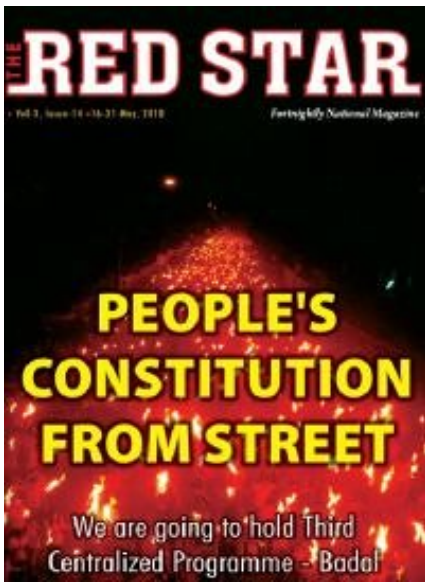
谷川昌幸(C)

「張子のトラ」——この懐かしい見出しを掲げているのが、『赤星』社説(Red Star,16-31 May)。MK・ネパール首相ら体制派は、「張子のトラ」にすぎないというのだ。

『赤星』は全ページ真っ赤のマオイスト雑誌。形式主義，官僚主義のお手本のような，空疎な決まり文句が延々と連なっている。共産主義者の文章は，どうしてみなこのような紋切り型になってしまうのだろう？

この社説もそうだ。社説によれば，2006年4月革命とCA選挙により人民の意思が示されたのに，外国勢力により権力につけられた買弁階級がそれを裏切り，社会改革を進めない。そこで，歴史の真の創造者，人民が再び街頭に出た。封建的支配者に勝利した人民は，今度は，買弁階級と傀儡政府を打倒し，勝利するだろう。支配者たちは，「張子のトラ」にすぎないからだ。

この『赤星』社説の論旨は明快だ。しかし，あまりにも空疎で，およそ「人民」が書いたものとは思えない。そもそも「人民」とは誰なのか？ 誰か「人民」を見た人がいるのだろうか？



Red Star 3-1

0:45 | [コメントの投稿](#) | [固定リンク](#) | [この記事进行引用](#) | [マオリスト](#)

2010/06/12

## Ms Officeの安全性

谷川昌幸(C)

マイクロソフトは、やはりMs Officeの各ソフトを統合し、受信トレイから操作できるようにするという。素人の私には専門的なことはよくわからないが、これはなんとなく危ないような気がする。

今回のブログ（Windows Live Space）のシステム変更で、ユーザー設定のアクセス制限がマイクロソフトにより一方的に解除され、多くの人の丸秘情報が世界中にばらまかれた可能性がある。

同じようなことが、Ms Officeについても起こる可能性がある。あるいは、そうでなくても、あまりにも複雑になりすぎてユーザー側が情報を管理しきれず、ちょっとした不注意によりパソコン内の丸秘データをうっかり配信してしまうおそれがある。これは要注意だ。

以下は、マイクロソフトからの変更予告。

### ■ Hotmail アカウントで、Microsoft Office Web アプリケーションを無料で利用可能

#### ドキュメントを受信トレイから直接開いて閲覧および編集

Hotmail を閉じずに、受信トレイの Word、Excel、PowerPoint ファイルを閲覧および編集できるようになりました。添付ファイルを編集したい場合は、ファイルのダウンロードやソフトウェアのインストールをしなくても、受信トレイから直接編集できます。アニメーションや切り替え効果を含む Powerpoint のスライド ショーを開始することもできます。



## Microsoft Office ドキュメントをオンラインで共有し、他の人と一緒に作業する

Hotmail では、大きなフォト アルバムを共有できるのと同じように、リンクを介して、大きなドキュメントなどのファイル (50 MB までのファイルを最大で 200 個) を送信できます。オンラインの格納場所を使用するため、相手の受信トレイで場所を取ることもありません。また、Hotmail アカウントから送信することで、受信者も無料の Microsoft Office Web アプリケーションを使用してドキュメントを閲覧および編集できます。受信者が使用している電子メール サービスの種類や Microsoft Office のバージョンは関係ありません。

これは、私たちが取り組んでいる Hotmail の新機能のごく一部です。これらの機能は近日中に、お使いの Hotmail アカウントに提供されますので、ご期待ください。 Microsoft Hotmail チーム

-----  
(補足)

## MMR 3 6 0 氏によるMS批判 (<http://mmr360.spaces.live.com/>)

### 姓名の強制公開

Windows Live IDは、かつて姓・名・ニックネームの3つを自身のプロフィール名として設定でき、Windows Live Spacesにはニックネームが表示される仕様でした。

【姓】山田 【名】太郎 【ニックネーム】ああああ (公開)  
ところが以前のバージョンアップにより、事前予告なくニックネームの設定が消されてしまい、Spacesには名が勝手に強制表示されるようになりました。

【姓】山田 【名】太郎 (強制公開)  
あまりの勝手な仕様変更にびっくりしましたが、このとき私は次のように変更しました。

【姓】山田 太郎 【名】ああああ (強制公開)  
しかし、6月8日のバージョンアップにより、今度は姓も強制公開となったようです。

【姓】山田 太郎 (強制公開) 【名】ああああ (強制公開)  
あまりにもひどい！ 姓名という個人情報を入力する部分において、以前は非公開だった部分を勝手に強制公開するとか、ユーザーをなんだと思っているんでしょうか。

### Spacesのアクセス情報の廃止

Spacesの管理者が確認できるアクセス情報が消えて無くなりました。アクセス情報では、自身のSpacesに何人アクセスしたか、アクセス元はどこか、というような情報を確認できました。それがまったく確認できなくなっています。こんなのブログ必須ツールでしょうが……。なぜ無くしたんだ……。

21:58 | [コメントの投稿](#) | [固定リンク](#) | [この記事引用](#) | [コンピューターとインターネット](#)

## ブログ引越を検討中

谷川昌幸(C)

このブログの引越を検討しています。

(1)Google: <http://nepalreview.blogspot.com/>

Googleの商法もかなりえげつないが、それでもマイクロソフトよりはまし。ほとんどの人が、マイクロソフトに見切りをつけ、引越準備を始めたので、とりあえずアドレスを確保しました。

(2)Live Door: <http://blog.livedoor.jp/nepalreview/>

ホリエモンを以前から尊敬しているので、やはりこのブログがよいかもしれない。

(3)Yahoo: [http://blogs.yahoo.co.jp/nepal\\_review](http://blogs.yahoo.co.jp/nepal_review)

ヤフーは、以前はデザインがあまりにも幼稚で気恥ずかしかったが、最近はかなりシンプルになった。

(4)自前のサーバー

素人には難しいかもしれないが、結局は、自分のサーバーをもつのがよいかもしれない。これも検討中。

15:28 | [コメントの投稿](#) | [固定リンク](#) | [トラックバックの表示 \(1 件\)](#) | [この記事引用](#) | [コンピューターとインターネット](#)

2010/06/11

## 死者との同居：Windows Liveの恐怖

谷川昌幸(C)

マイクロソフトのWindows Liveが、いよいよ恐ろしいことになった。数日前の大改悪により私のプロフィールが勝手に書き換えられ、なんと数年前に殺したはずの私自身が墓場からよみがえったのだ(この現象は多くのユーザーが報告している)。

やたら増えた窓(windows)の一つから死んだはずの私が手招きし、別の窓からは生きている私が顔を出している。死者の私はMSの管理下にあり、生者の私には成仏させようがない(方法はあるかもしれないが複雑でよくわからない)。ウソのような本当の話。A・ハックスレーにもオーウェルにも想像もできなかったIT超現実世界が実現しつつある。

さらに恐ろしいのは、新版Windows Liveでは、どうやらMs Officeの全データが一括管理——もちろんMSにより——されているらしく、パソコン内のファイル情報が全部表示される。つまりMSの管理下に入っている(と思われる)。

もういけない。これはあまりにも危険だ。ネット切断ができないのなら、Windows LiveとMs Officeの併用は、少々不便であっても断念せざるをえない。とくに、官公庁、企業、学校などは、その使用を止めるべきだろう。(Windows Liveを使用しない場合のMs Officeの危険性については、IT素人の私にはよくわからないが、ネット接続されておれば同じような状況になっているのでは

ないだろうか。)

安全を考えるなら、一太郎、手裏剣など、汎用性の低い国産ソフトを見直すべきだろう。

### 【MS担当者との応答例】 (<http://windowslivehelp.com/forums.aspx?productid=7>)

マイクロソフトに対しては、無数の批判が寄せられている。下記saganhama氏、hiroinrop氏など、批判のほとんどはきわめて誠実であり、説得力があるのに対し、マイクロソフト担当者の回答は慇懃無礼で、無責任極まるものである。マイクロソフトがいかに官僚主義化し、社員が当事者能力を失ってしまっているかがよくわかり、たいへん勉強になる。組織の硬直化、官僚主義化の実例として使用させていただく予定だ。なお、私のこのブログは**有料サービス**。マイクロソフトにちゃんと使用料を払って、使用している。

#### Q1-1. saganhama      Wednesday, June 09, 2010

今回の変更に伴う重大な弊害だと思うのですが、この件について誠意ある回答を願います。

プロフィール、個人情報、記事へコメント等に対するアクセス制限が仕様変更前とは違った設定に書き換えられているのでしょうか？ 今までコメント出来た友だちの記事のコメント欄が「この項目へのコメントは有効になっていません。」のメッセージが表示されコメントできなくなっています。逆にコメント出来なくなっていたのにコメント出来る様になっているケースもあります。私の場合はコメント出来ない様に変えられてました。ブログ友からの情報があったので今はアクセス制限を変更しコメント出来るようにしましたが、アクセス制限の修正をするページへ行き着くのにかなりの時間を費やす事になり大変な思いをしました。

それから多くの情報が来てるにも関わらず、プロフィールの画像とハンドルネームが従来通りに表示されない件についても未対応のスペースが数多く存在してます。私の場合はブログ友からの情報も有ったので、プロフィールのページを開いて、新しいプロフィールへ・・・のメッセージがある処から、アクセス制限⇒生年月日⇒連絡先の情報を再度設定する事で従来の画像とハンドルネームが現れました。この作業をやらなければ従来どおりの表示ならないのであれば、何らかの方法で事前にユーザーに対し情報を発信して欲しかったと思います。

今までにも予告無しに仕様変更を幾度と無く実行されてますが、今回の余りにも弊害が多すぎるのではないですか？ アクセス制限を操作してしまうのは個人情報を軽く見てるとしか思えません。無料提供のスペースなんだから、我慢して使えと言わんばかりの高飛車な態度は一流企業であるはずのマイクロソフト関連の御社の姿勢は如何な物、ユーザーの皆さんが本当に納得できる誠意ある回答をお願いします。

#### A1-1. Windows Live 渡部      Friday, June 11, 2010

こんにちは saganhama さん、モデレータの 渡部 です。お気づきのように、今回サービスアップデートを行わせていただいたことにより、Windows Live サービスでは、大幅に操作画面を変更させていただきました。saganhama さんには大変お手数をおかけしましたことを深くお詫び申し上げます。

また、事前告知がなかったことに対するご指摘や、アップデート後にアクセス許可設定をしなおしていただく必要があったことにつきましては、すべて担当部署に報告させていただき、今後のサービス向上に繋げてまいります。貴重なご意見を誠にありがとうございました。現在の操作画面に慣れるまでお不便をおかけするかとと思いますが、今後もWindows Live を何卒よろしく願いいたします。

Windows Live Solution Center モデレータ 渡部

#### Q1-2. saganhama      Friday, June 11, 2010

折角回答頂いたのですがこれでは回答になってないと思います。アクセス制限の無断変更は（あえて改ざんと言わせてもらいます）他のユーザーも言われてる通り個人情報流失の原因を作っていると思います。

未だに具体的な対処方法の案内もないと言う事はどう言う事でしょう。修正方法の情報を得られた人は修正も出来ますが、他のユーザーはどうするのですか？ 何もしないで待てればアップデート前の設定に戻るのでしょうか？

アクセス制限だけでは有りません。プロフィールの画像も未だに回復しておられないユーザーが大勢おられます。あるユーザーさんが画像の回復方法を投稿されてましたが、MSN側からは何の案内もありません。何もしないで回復した方も居られますが、これもいずれは元に戻るのでしょうか？ 今回のアップデートが始まって3日目になっても全ての被害は修復されてないのが現状です。リニューアル後にユーザーが対処すべき項目については、大至急ユーザー全員に案内を出してもらえませんか？

今回のMSNの対応は余りにも酷すぎると思いますが・・・ 操作方法に慣れるまで・・・と言われますが操作方法のマニュアルが無い状態でどう対応するのでしょうか。ユーザーがそれぞれで試行錯誤しながら操作しなさいって事でしょうか？ 最低限操作マニュアルは必要だと思うし、アップデート前に操作マニュアルを見れる様にしておくのは極当たり前の事ではないでしょうか？

アップデートする事が悪いとは言っておりません。アップデートした時にユーザーが困らない体制を作りたいのです。きつい言い方になりますが、現状はユーザーをもてあそんでるとしか言えない状況ですよ。企業のユーザーに対する姿勢として、本当にこれで良いと思われてるのですか？

#### **A1-2. Windows Live 白根** Friday, June 11, 2010

こんにちは saganhama さん、モデレータの 白根 です。この度はご不便をおかけしておりますこと、お詫び申し上げます。また、貴重なご意見を心より感謝申し上げます。

今回のサービスのアップデートでは、多くのお客様からさまざまなご意見をお寄せいただいております。全ての声に耳を傾け、弊社サービスの更なる向上に努めてまいります。また、現在、皆さまから掲示板にご質問いただいている件については、改善されるよう、サポート一同、継続して対応させていただきます。 Windows Live Solution Center モデレータ 白根

#### **Q1-3. saganhama** Friday, June 11, 2010

モデレータの白根様。。。 今回のアップデート時の問題について、お詫び申し上げますで済む問題でしょうか？ ユーザー側で設定していた内容が無断で改ざんされてるんですよ。今までもアップデート時に問題はありましたが、ユーザーの設定内容が書き換えられると言う様な事はなかったと記憶しております。

何度投稿しても納得の行く回答は得られない事が分りましたので、今回の問題に対する投稿はこれで終わりとします。最後にそちらで言われてる。「全ての声に耳を傾け・・・」 この言葉を有言実行される事を切に願います。

#### **Q2. hiroinrop** Wednesday, June 09, 2010

アクセス情報へのアクセスができないことに本日気づきましたが、W L のアップデートにより削除されたとの説明ですが、なぜ削除することになったのかのご説明がないのは、はなはだ残念です。これまで日々、アクセス情報を見ることにより、どんなキーワードにより検索されたのか等がわかり、楽しみがありましたので更新意欲にも影響があります。

アクセス情報の削除に代わるページへのアクセス状況を知る方法はないのでしょうか。どの程度アクセスがあるのかをすることはアフィリエイト等にリンクをする際にも不可欠な情報だと思いますので、たとえば、アクセス者（訪問者）のカウンターの設定方法などご教示願います。基本的には、アクセス情報の復活を希望します。

お多忙中とは思いますが、よろしくお願いします。

## A2. Windows Live 伊藤 Wednesday, June 09, 2010

こんにちは、モデレータの伊藤です。Windows Live スペースで、「アクセス情報」が表示されず、お騒がせしております。

この度、サービスアップデートを行わせていただいたことにより、Windows Live スペースでは、大幅に画面や操作内容が変更となりました。既に皆様お察しの通り、お問合わせいただいております「アクセス情報」は、この度のアップデートにより、削除させていただいています。アクセス情報をご利用いただいていたお客様には大変申し訳ございませんが、何卒ご了承いただきますよう、お願いいたします。また、この度のアップデートによる仕様の変更により、ユーザーの皆様には、慣れるまでご不便をおかけすることと思いますが、ご理解のほど、よろしく願いいたします。

この度いただいたご意見に関しては、全て担当部署に報告させていただきます。

10:29 | [コメントの投稿](#) | [固定リンク](#) | [この記事引用](#) | [コンピューターとインターネット](#)

2010/06/10

## Windows Live 炎上

谷川昌幸(C)

MSブログの奇想天外な、まったくもって理解不能な、大改悪について、世界中から怒りが殺到し、MSNの関連ページが炎上している。

閲覧回数も、閲覧経路も分からなくなった。誰が、どこから読んでくれているのか、まったく分からない。暗中飛行、レーダーなし航行のようなものだ。そのくせ、自分たちだけはアクセス情報を私物化し、将来、何かの形で利用する魂胆なのだ。

ほとんどの人は、このままではブログを他社のサービスに替える、と宣言している。そりゃ、そうだ。会社が巨大化し、官僚主義化すると、こうなるという、格好の見本である。

16:31 | [コメントの投稿](#) | [固定リンク](#) | [この記事引用](#) | [コンピューターとインターネット](#)

## 窓だらけWindows Live

谷川昌幸(C)

私のブログは、2005年以来、MSのサービスを使用している。私としては、文字と写真さえ表示されればそれでよく、単純軽快なシステムが望ましいのだが、世界制覇をねらうMSはそうではないらしく、次々と新サービスを追加し、重いと悪評のシステムをますます重くしていく。

今回も、大幅なシステム変更があり、あちこちに窓が追加され、素人の私には何がなにやら訳がわからなくなった。どの窓がどの方向に開かれており、誰がどこから見るのか、見当もつかない。

よくわからないまま、使用し始めたら、パソコンがなにやらカチャカチャやっていた。もし「招待状」か何かが届いたら、まことに申し訳ないが、即、ゴミ箱に捨てて下さい。ご迷惑をおかけし、申し訳ない。

巨大化するMS依存は危険なので、メールは、古き良き日本の伝統を継承する純国産「手裏剣」を使用している。まさか「手裏剣」のアドレス帳までMSが勝手にのぞき見することはない。

それにしても、システムの巨大化・複雑化は恐ろしい。今回のWindows Liveの「改善」でも、数年前に変更したはずのプロフィールが勝手に復活していた。死人が墓場から出てきたようだ。**私は殺したはずなのに、MSの方で休眠とし、これを生き返らせてくれたのだ。**

その一方、アクセス・カウンターが消えた。これはわがブログへのアクセス元がかなり詳しく表示され、重宝していたのに、改訂版では無くなってしまった。こんな利用価値の高い重要情報は、MSが独占し、ブログ・サービス使用者には見せないことにしたい。使用者たる私は、丸裸で、どの窓を開閉し、どこを見せるかは、最終的にはMSの思いのまま、ということらしい。

長年使用してきたので他のサービスに移るのは大変だが、そろそろ自前のサーバーに簡単軽快なブログを開設すべき時かもしれない。

10:39 | [コメントの投稿](#) | [固定リンク](#) | [この記事引用](#) | [コンピューターとインターネット](#)

2010/06/09

## 王制復古の提唱

谷川昌幸(C)

BB・ビスタ氏が、文化的象徴王制への復古を提唱している。

Biraj Bahadur Bista, "Engage the monarchy: btter to engage the monarchy culturaly than risk it being exploited dangerous ideologies," *Nepali Times*, #504, 28 May-3 June 2010.

ビスタ氏によれば、以前から国王は民衆に人気があり、行く先々で大歓迎された。民衆は動員されたのも政治的動機からではなく、国王の存在そのものに魅せられ、国王のところに詰めかけた。

現在は、王制は制度的には廃止されているが、それでもギャネンドラ元国王は依然として人気があり、多くの人々が元国王のところに集まってくる。ところが、以前と異なるのは、その民衆の中にヒन्दウー至上主義(Hindutva)を掲げる人が目立ち始めたことだ。これは、ネパールにとって憂慮すべき徴候である。

最近、カマル・タパとクーム・バハドル・カドカも、訪印後、世界ヒन्दウー協会（VHP）がネパール王制の復活を支援してくれるだろう、と発言した。

王制は、ネパールという「想像の共同体」の構築において、決定的な役割を果たした。ネパール人は、250年前、国王が多くの民族を統合して「ネパール」とすることによりネパール人となった。ネパール人意識と、それを創り出した王制(国王)との間には、深い結びつきがある。王制廃止後のいまでも、多くの民衆が元国王のもとに押し寄せるのは、王制がネパール人アイデンティティを象徴しているからである。

この王制の象徴するアイデンティティは、決して政治的なものではない。王制は、文化的なものであり、そのようなものとして扱うのが賢明である。

もしこれを無視し、王制を排除すれば、外国勢力が民衆に人気のある元国王を利用して内政に干渉するようになり、極めて危険である。

したがって、新憲法では、王制を復活すべきである。ネパールには多くの民族、宗教がある。それらを統合する「文化的役割」を王制に担わせるべきである。



ギャネンドラ元国王

——以上が、ビスタ氏の議論の要旨である。賛否は別として、こうした王制擁護論が出ることは、ネパールにおける憲法論議にとっては望ましいことである。

共和制は王制以上に難しい制度であり、運用を誤ると、極めて危険である。王制をとるか共和制をとるか、あるいは共和制とするなら、どのような共和制とすべきか？ これは国家の基礎にかかわるもっとも基本的な問題である。こうした問題については、徹底的に議論すべきなのに、ネパールでは原理的議論を十分行わないまま、王制が廃止され、共和制に移行してしまった。

しかし、まだ間に合う。新憲法制定までに、王制(君主制)についても十分議論し、象徴君主制と共和制との得失を冷静に比較検討すべきである。共和制にするにしても、そうした議論を踏まえた上での移行とすべきであろう。

それにしても、ビスタ氏が韓国で研究されているのは、残念だ。日本に来られれば、世界に冠たる象徴天皇制をじっくり観察し、その研究成果をネパールの憲法制定過程に存分に反映させていただけるのだが。

21:13 | [コメントの投稿](#) | [固定リンク](#) | [この記事引用](#) | [国王](#)

2010/06/04

## 中国のネパール進出とアメリカ国益

定評ある外交誌「フォーリンアフェアーズ」にネパール記事が掲載されている。

Greg Bruno, "Letter From Kathmandu: Nepal's Two Boulders," *Foreign Affairs*, 26 May 2010.

この雑誌を出しているのはC F R(The Council on Foreign Affairs) であり、その基本方針は次の通り。

"The Council on Foreign Affairs has promoted understanding of foreign policy and America's role in the world since its founding in 1921. --Richard Haass(President)"

記事の著者グレッグ・ブルーノ氏はこのC F Rのメンバーであり、ダウジョーンズ系新聞の軍事問題担当記者、ニューヨークタイムズ記者をへて2007年C F Rスタッフとなった。著名なジャーナリストで、多くの賞を受賞している。

記事によれば、いまドラカ郡都チャリコットからラマバガル村に向け道路建設が進んでいる。この村の北の峡谷には456メガワットの発電能力を持つU T H Pダム（上部タマコシ水力発電事業、2014年完成予定）が建設中で、道路はこのダム建設のためのものだが、いずれさらに北に延伸されチベットと結ばれることになる。



Lamabagar (KOL, 10 May)

これは 著者によれば、ネパールの戦略的位置を大きく変える。中国からの物資輸送が容易になり、とくに石油供給が可能になれば、インドは最後の手段としての経済封鎖が使えなくなり、ネパールへの決定的な影響力を失うことになる。

著者が言うように、このラマバガルは小さな村だが、地政学的にみて重要な位置にあることはまちがいない。ここには古いチベット僧院があり、国境を越えチベットまで徒歩で2日ほど。この1, 2月にも、チベットから逃れてきた数十人の人々がこの村でネパール警察に拘束され、そこに中国が大使館駐在武官を派遣し、一気に緊張が高まった。中国はネパール政府に圧力をかけ、武装警察隊（A P F）を国境付近に配備させ、チベット人の動向を監視させている。

一方、いまのネパールには中国人があふれている。タメルでは中国人たちが中国人経営のレストラン、書店、病院などに押しかけている。（中国系病院までであるとは知らなかった。）中国文化センターもタライを中心に国中に展開しつつある。中国の戦略は中央というよりはむしろ地方への経済援助であり、学校建設も戦略的に重要な地域で進められている。

これに対し、インドはもちろん警戒心を強めている。とくにマオイストのインド敵視・中国接近は、International Crisis Groupによれば、「インドの警戒線を超えてしまった」という。

この状況にアメリカも強い関心を持ち、ネパールの平和的な民主主義への移行を支援している。マオイストについても、アメリカ国務省は、テロリスト・リストに載せつつも、彼らを権力に参加させようとしている。しかし、アメリカの影響力は限られており、中印両国への



働きかけが欠かせない。

「アメリカはネパールを対立するアジアの二大国の間の安定した民主的緩衝国としたいと考えているが、その成否はネパールの隣国の手に握られているといっただろう。」

以上のようなブルーノ氏の分析は、アメリカ政府の対ネ政策の代弁といってもよい。アメリカのネパール民主化支援は、インドの暴走を牽制しつつ、中国の進出を押さえ込むことを目的としている。それがこの地域におけるアメリカ国益なのである。



Lamabagar (Google)

(参考) **無電化村照らす中国製品 ネパール、太陽電池など急速に普及**(IZA, 2010/06/01)

「世界最高峰のエベレストを有するヒマラヤ山域の無電化村落で、中国製の太陽電池パネルやLED（発光ダイオード）電球などが急速に普及している。中国チベット自治区の商人がヒマラヤの国境を越えて運んでくるもので、インド、ネパール製品より低価格と好評なためだ。中国とインドに挟まれたネパール北端では“エコ”な製品を中心に、中国の経済的影響が増し始めている。」(<http://www.iza.ne.jp/news/newsarticle/economy/worldecon/398000/>)

7:52 | [コメントの投稿](#) | [固定リンク](#) | [この記事引用](#) | [外交](#)